

豊川市町内会アドバイザー 派遣事業 報告書

令和3年3月

名古屋市立大学 都市政策研究センター

(担当：名古屋市立大学大学院人間文化研究科 准教授 三浦 哲司)

もくじ

1 本事業のねらい	2
2 本事業の経過	5
3 分析・考察・提案	31
4 ヒント集	34

1 本事業のねらい

本事業は、豊川市内の連区および町内会を対象に、「昔からの業務に追われて負担が大きい」「仕事を掛け持ちしながらの活動で負担を感じる」といった悩みをふまえ、参加者同士で運営・活動の課題を洗い出して解決策を検討し、持続可能な体制を構築することをねらいとしている。

わが国では現在、全国的に町内会の加入率は減少傾向にある。こうした背景には、担い手不足・後継者不足によって町内会役員の固定化・高齢化が進行し、活動内容も固定化して新たな参加者が増えないという悪循環を指摘することができる。さらに悪いことに、全国各地の自治体のなかには、実際に町内会の活動が休止となったり、解散を余儀なくされるケースも顕在化しつつある。

他方で、昨今、町内会に対する期待がますます高まっているのも事実といえる。ここ数年のうちに全国各地で豪雨災害がたびたび起き、また今後南海トラフ巨大地震の発生も危惧されている。こうしたなかで、町内会を基盤とする地域防災活動の展開により、災害発生時に共助の力によって発災直後の助け合いやスムーズな避難所の運営が期待されている現実がある。もちろん、このような災害対応のみならず、平時においても、たとえば高齢化にともなって地域でますます増加する認知症患者について、独り歩きへの保護などもあり、数多くの役割を果たすことが期待されている。

このようにみるならば、町内会は現在、その運営は困難な事態に直面しているにもかかわらず、地域において果たす役割への期待はいっそう高まっている、という逆説的な状況に置かれていることがわかる。

それでは、こうした困難はいかにして解消していくべきなのだろうか。現在のような町内会運営の状況の根底には、時代の推移のなかで、運営の担い手をめぐるさまざまな環境が変化しているにもかかわらず、日ごろの業務や活動がしだいに積み重なっていき、現状に見合うかたちでの業務量や活動量とはなっていない、という事情がある。それゆえに、今後の町内会の方向性としては、大きく以下のふたつの内容が考えられる。

第一は、「現在の町内会活動の担い手で対応できる業務量・活動量に調整する」である。町内会活動に携わる役員や参加者のマンパワーに照らして、業務量・活動量があまりにも多くて負担が過大になっている場合は、既存の業務・活動のあり方を見直す必要がある。すなわち、業務・活動の合理化・効率化を図る、あるいは重要性・必要性が高くない業務・活動

は思い切って廃止や休止を進めることになる。

第二は、「現在の業務量・活動量を維持するために、町内会活動の新たな担い手を増やす」である。既存の町内会の業務・活動を今後も維持したいものの、役員や参加者のマンパワーが不足しているのであれば、町内会の範囲の内外から新たなマンパワーを調達することが必要となる。その際には、町内会の未加入者、町内会には加入しているものの活動の不参加者、町内会に加入して催事等には参加する者など、どの層をターゲットに据えて対応するかが問われる。

もっとも、こうしたふたつの方向性に関しては、いずれかひとつを選択するというよりも、実際には町内会の業務・活動のあり方を見直しつつ（第一の方向性）、新たな活動の担い手を開拓していく（第二の方向性）ことになろう。もちろん、それでも状況が改善しない場合は、隣接する町内会との統合を進め、スケールメリットを働かせることで業務の効率化や潜在的な役員の担い手確保を図るという将来的な可能性もありうる。

また、令和2年の初頭より、世界的にまん延した新型コロナウイルスの影響により、わが国の町内会の活動は、その多くが中止や延期を余儀なくされている。こうした困難な局面だからこそ、孤立や孤独の発生を防ぐために、地域のなかでのつながりが求められる。しかし、現実には対面での活動は大きく制限され、町内会にとっては常にもどかしさに向き合い続ける1年となった。そのため、上記のとおり既に運営が困難な状況に直面していた町内会は、その活動に追い打ちがかけられつつあるともいわれる。

ただ、このように従来からの活動が制限される「アイドリング期間」だからこそ、今一度立ち止まって、今後の町内会のあり方を再考する作業は、必要不可欠である。すなわち、必ずしも時代に合わない業務・活動は、この期間に見直しを進める契機にするなど、コロナ禍を「ピンチとしてではなくチャンス」ととらえる姿勢が望まれる。

そこで、本事業を通じて、令和2年8月より、豊川市におけるこれまでの町内会活動のあり方について再考を重ね、時代の変化や現在のコロナ禍に適合した今後の方向性を模索してきた。今年度の本事業には、豊川市内で活動する連区・町内会のうち、古宿連区、蔵子二区町内会、平尾町内会、三上町内会の4団体が参加している。事業期間中には、事前勉強会および全体での検討会に加えて、団体ごとに「地元協議」というかたちで個別に検討する機会も設け、既存の業務・活動の検証および今後の業務・活動の方向性を探った。毎回の会議では参加者同士での意見交換のほか、ワークショップ形式でのやり取りも行なってきた。豊川市職員が進行を担当し、名古屋市立大学の学生・大学院生・研究員も進行補助に従事した。

本報告書はこうした一連の事業について整理・検証し、今後の方向性をとりまとめたものである。なお、本事業は継続的に来年度以降も実施していく。

2 本事業の経過

ここでは令和2年度における本事業の経過として、事前勉強会、第1回から第3回までの検討会、団体ごとの地元協議、の3つについて整理する。

2-1 事前勉強会（令和2年8月）

2-1-1 事前勉強会の概要

本事業を進めるにあたり、まずは参加4団体それぞれの事情や問題意識を整理するねらいで、以下のとおり事前勉強会を開催した。

名称	令和2年豊川市町内会アドバイザー事業 事前勉強会
日時	令和2年8月2日（日）10：00～12：05
会場	豊川市勤労福祉会館 大研修ホール
出席者	【古宿連区】 佐藤富之、篠田進、鈴木正 【蔵子二区町内会】 高田和博、廣田洋一、丸山加代、中野まいこ 【平尾町内会】 杉浦秀雄、寺部文男 【三上町内会】 清水浩之、福田和弘、豊田真ヤ、鈴木留美、中村浩之 【若者ボランティア】 土川龍大、藤原沙奈恵 【豊川市役所】 木和田恵、近藤邦宏、武村晃、鈴木彩香、山田絵美、本田勇輝 【名古屋市立大学】 柏原将太、高橋勇輝、大竹善政、戸澤実里、林正人、佐藤則子、三浦哲司
ながれ	【課長挨拶】

本事業の経緯、趣旨、ねらいについてあいさつがあった。

【アドバイザー（三浦）の話】

・テーマ

町内会が抱える課題解決に向けて（町内会アドバイザー派遣事業検討会に向けた視点を学ぶ）

・内容

町内会の活動内容とともに、行政からの依頼業務や行政⇄町内会の相互関係を確認した。その後、町内会を取り巻く環境の変化に触れ、運営困難な状況に陥っている実態を共有した。そのうえで、「現在の人員で活動を続けるならば、人員に対する活動量の検討が必要」「現在の活動量を維持するならば、人材をどこから何人、どう確保するかを検討が必要」というふたつの方向性を提示した。

【質疑応答】

・質問

役員報酬の金額はどう決めるのが望ましいのか？

・回答

総会は前提として、やり方はさまざま。検討会のようなものを立ち上げて検討するやり方もある。いくらかというのは事情がさまざま。ポイントは、しっかりとした理由づけができるかどうか。

【町内会・連区ごとにわかれて話し合い】

・自己紹介

町内会・連区ごとに参加者同士がシートを用いて自己紹介した。

・意見交換

「これまで役員同士で話し合ったことがある町内会運営の悩み・問題・課題」「それによって困っているのは誰」の2テーマについて、名市大関係者が進行役をつとめて意見交換した。

	<p>【各団体からの発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 平尾町内会 <p>役員の選出、コロナ禍での行事対応などに困難あり。</p> • 蔵子二区町内会 <p>役員、区長の人選で苦戦。役員は7人だが、元気のいい方に根回しをしてひとり町内会長を決めて、残りの6人で他のポジションを決めた方がよい可能性あり。また、張り切っているいろいろやるのはいいが、それを引き継ぐ来年の人が大変との意見あり。誰でも役員をこなせるようにした方がいい。引き継ぎが大変なので、活動をまとめたファイリングなども必要だが、実際にやってみたら20種類を超えた。しかし、やってみてよかった。</p> • 古宿連区 <p>「子どもの数が少ない」「移住者や若手が未加入ゆえのゴミステーション運営や財政運営」「役員のなり手の不足」などの課題を抽出。空き家問題、子ども会の運営の困難化なども意見交換した。</p> • 三上町内会 <p>1連区1町内会なので運営しやすいが、町内会長のなり手が少ない。今後は役員を担当してくれる人が少なくなる。消防団にも定員20名を確保する必要がある。加入してもらうのにも手がかかる。ただ、消防団も町内会も入れば楽しい。魅力を発信していかないと何をやっているかが伝わらない。町内会の役員のなり手もいなくなる。それを理解していただいたうえで町内会の充実をしていきたい。</p>
<p>今後に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 現状においては、特定の人に役職や負担が集中しており、彼らの高い志で何とか地域活動や町内会運営が維持できている実態にある。他方、多くの住民には、「役員になると負担が大きい」というイメージが先行してしまっている。こうした先入観ゆえに、話し合いのテーブルにさえ付くことができない状況にある。 • そもそも、どれだけの負担を抱えているのかが客観化できておらず、検討の前提として「活動や負担の見える化」が要る。こうした作業は結果的に

	<p>はマニュアル作成や安定した引継ぎにもつながる。ただ、役員の任期が1年の場合もあり、ようやく活動や運営の実態が分かってきたところで次の役員に交代となることもある。右も左もわからない人も少なくないという事情を加味する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町内会の総会や役員会は連絡調整が中心であり、運営の悩みや課題を共有したり、解決策を話し合ったりするような場になっていない。結果として、現状では現在の役職者が後任探しで苦労している状況が続いている。 ・ 加入率や高齢化率といった各種データ以外にも、地域の特殊事情（地域に居住する特定の人物（「長老」と言われる）の承認がなければ、話が何も前に進まないなど）などを加味していく必要がある。 ・ イベントやサロンの状況をみると、コロナ禍での活動展開のあり方は論点のひとつになる。また、将来的な動向をふまえると、組織の再編や統合も課題となりうるが、現時点では各々の考え方ゆえに検討を始めること自体が困難な状況にある。
--	---

2-1-2 アンケートの結果

事前学習会における参加者向けのアンケート結果は、以下のとおりであった。

Q2 過去に話し合った問題

古宿連区（3）	蔵子二区（5）	平尾（2）	三上（4）
加入率の低下 2	加入率の低下 3	加入率の低下 1	加入率の低下 1
担い手の不足 1	担い手の不足 3	担い手の不足 2	担い手の不足 2
役員の高齢化 2	役員の高齢化 2	役員の高齢化 1	活動負担の大きさ 1
役員選出の困難さ 2	活動のマンネリ化 1		役員選出の困難さ 3
参加者意識の温度差 1	活動負担の大きさ 3		
	役員選出の困難さ 4		
	予算不足 1		

Q3 これまで話し合った運営の方向性

古宿連区（3）	蔵子二区（5）	平尾（2）	三上（4）
ある 0 ない 3 ⇒自分達で町内を守る 話し合いの必要性 負担が小さい運営	ある 2 ⇒催事の回数を減らす 委員会予算の見直し ない 2 ⇒誰でもやれるような スリムな体制 不明 1	ある 0 ない 2 ⇒行事の縮小	ある 3 ⇒活動量を少なくする 役員選出方法 会員が集う場づくり ない 1 ⇒各世代が集う行事

Q6 その他、自由記入

- ・ 行政側で町内会長同士の話し合い・意見交換の場を設定してほしい。

2-2 第1回検討会の開催（令和2年9月）

2-2-1 第1回検討会の概要

事前勉強会でのインプットをふまえ、「誰が役員になっても運営できる連区・町内会」というテーマのもと、今後の運営のあり方を検討するねらいで、以下のとおり第1回検討会を開催した。

名称	豊川市町内会アドバイザー派遣事業 第1回検討会
日時	令和2年9月6日（日）10：00～12：10
会場	豊川市文化会館大・中・小会議室
出席者	<p>【古宿連区】 佐藤富之、篠田進、大杉芳行、平松聖史、河合祥智、本田茂、鈴木正、木和田聡哉、井澤雅範</p> <p>【蔵子二区町内会】 高田和博、伊藤卓夫、山西芳江、鈴木政子</p> <p>【平尾町内会】 杉浦秀雄、杉浦正敏、寺部文男、寺部圭史、清水サチ子、佐藤直樹</p>

	<p>【三上町内会】 清水浩之、福田和弘、豊田真ヤ、鈴木留美、中村浩之</p> <p>【若者ボランティア】 藤原沙奈恵</p> <p>【豊川市役所】 木和田恵、近藤邦宏、武村晃、鈴木彩香、山田絵美、本田勇輝</p> <p>【名古屋市立大学】 岡本風語、柏原将太、高橋勇輝、平岡佑実子、大竹善政、戸澤実里、林正人、佐藤則子、三浦哲司</p>
ながれ	<p>【アドバイザー（三浦）あいさつ】 前回の事前勉強会および地元協議の振り返り、コロナ禍であえて町内会運営のあり方を検討する意義、全3回のなかでの第1回の位置づけ、今回の作業のポイント、などに触れた。</p> <p>【連区・町内会ごとの話し合い】 「誰が役員になっても運営できる連区・町内会となるには何が必要か？」 「誰が役員になっても運営できる連区・町内会に向けてこれからどう動くか？」の2テーマについて話し合いを進めた。</p> <p>【各団体からの発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三上町内会 <ul style="list-style-type: none"> ・行事を年間で平均化し、中身を簡素化する。 ・役員を複数年にする。具体的には、一年にわたり会長を補助した人が次期の町内会長になるかたちが考えられる。 ・役員の実務を分担する。補助役を設けて回す。 ・次回は、どう具体的に動いていくかを話し合いたい。 ・平尾町内会 <ul style="list-style-type: none"> ・ハッチャケ会（住民有志）を町内会につなげたい。ほかにも、他の団体との連携を進めたい。

- ・新たに平尾地区の住民となった人々も参加できる活動機会を設ける必要がある。
- ・各種団体の役員を集めて会合を開き、どのような行事を行なうかについて考えたい。

・**蔵子二区町内会**

- ・月2回の区議員会を1回に減らし、行事のあるときだけ2回行なうようにする。
- ・役員の負担軽減に向け、仕事を分けて有償ボランティアを募集する（国勢調査、集金）。
- ・アパートの入居者が管理会社に区費や連区費を払っているが、それが町内会名簿に載っておらず、人数把握が難しい。
- ・祭が4月にあるため、新年度を3月からとしている。そのため、会計にズレが生じ、1ヶ月間は100万円近い金額を立て替えることもある。これは前年度に集金するなど、やり方を工夫したい。

・**古宿連区**

- ・加入率が下がっているなかで、今日の話し合いでは、役員のあり方がどうなのか、ということに終始した。
- ・区ごとに事情がちがい、高齢化が進み、役員のなり手が少ない区もある。役員が回ってくるタイミングで町内会をやめてしまう人がいる。
- ・委員会に関しては、重複の解消など見直しをしたい。そのための話し合いをしたい。

【全体のまとめ】

- ・今後につながる内容が出てきたので、今日の話はどう実行に移すかが問われる。次回は地元協議などで、詳細について検討を進めていくことになる。全体的には負担軽減がポイントになるが、行事のやめ方でも、一気にやめてしまう、徐々に縮小する、などいろいろな方法が考えられる。具体的な話をする際には、そのあたりがポイントになるだろう。
- ・現実問題として、今の役員だけでは決められないこともある。町内会・連

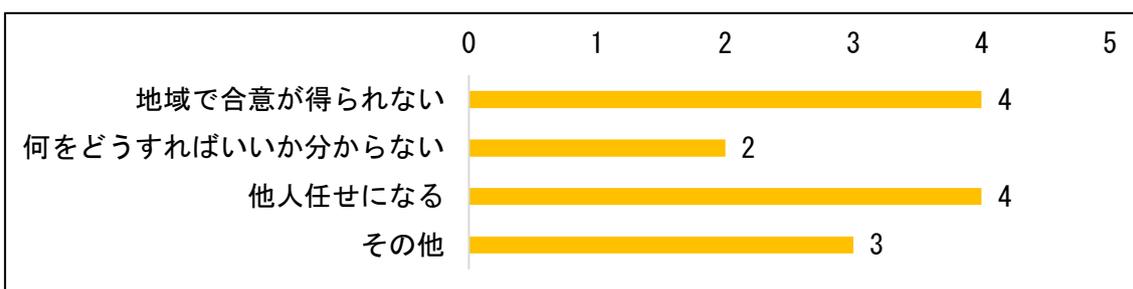
	区にはさまざまな人や組織が関わっているため、そのあたりの精査が必要になる。その過程では、方向性の共有が重要になってくる。
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> 参加する連区・町内会ごとに内部事情はさまざまであるが、「活動負担の軽減」「新たな担い手確保」という点では課題意識が共通している状況が再確認できた。今後も「誰が役員になっても運営できる連区・町内会」というテーマのもと、わずかでも運営改善が進むように検討を促していく。 一部の団体では、すでに行事の縮小や廃止に取り組み、負担軽減を進めてきた経緯もある。そうした経験を活かしながら、連区・町内会にとって何が必要で、何が不要かについて検討を進めることになる。その際には、連区・町内会のみでの判断で「対応できること」「対応できないこと」などの整理・把握が必要となる。

2-2-2 アンケートの結果

第1回検討会における参加者向けのアンケート結果は、4団体別では以下のとおりであった。

古宿連区のアンケート結果

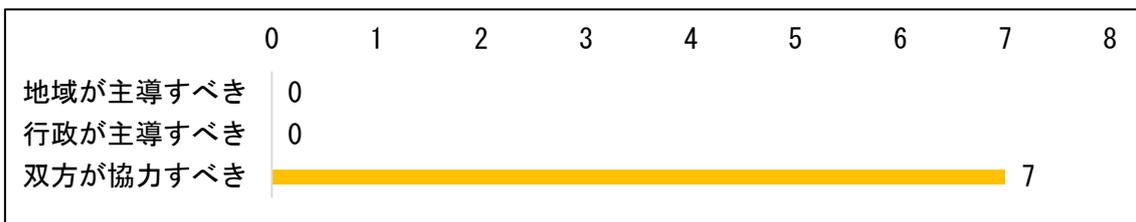
Q2 負担軽減や担い手確保といった運営の改善が進まない背景には、何があるでしょうか（○を付ける、複数選択可）？



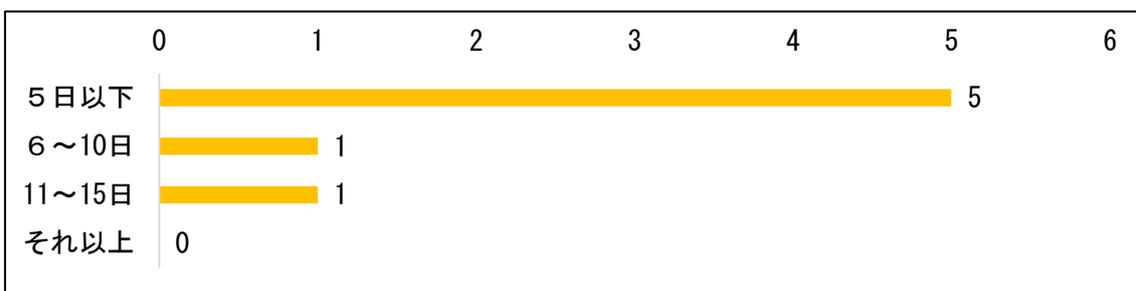
「その他」の内容は以下のとおり。

- ・ 単年度の役員では長期的なことを考えての変更はできないと思う
- ・ 少子高齢、共稼ぎ、昔は商店主が役員を引き受けていたが地元商店の商売が成立しない
- ・ 高齢者が多い、非協力的

Q 3 連区や町内会の運営の改善は、どのように進めるべきでしょうか (○を付ける、いずれか一つ)



Q 4 連区や町内会の会議・活動に、毎月、何日ほど費やしていますか (○を付ける、いずれか一つ)



Q 5 本日の検討の結果、連区や町内会の活動のうち、縮小や廃止ができそうな内容はありましたか (自由記入)

- ・ まずは外部・上部組織へのカネとヒトを出すことを考えなおす必要あり
- ・ その後に町内活動を縮小・廃止
- ・ 充て職を減らす
- ・ 検討中
- ・ 委員会の内容に重複部分はないか確認し、省略化する

Q 6 コロナ禍で連区や町内会の活動が困難なかで、「今後はこの活動は不要」と感じたものはありますか (自由記入)

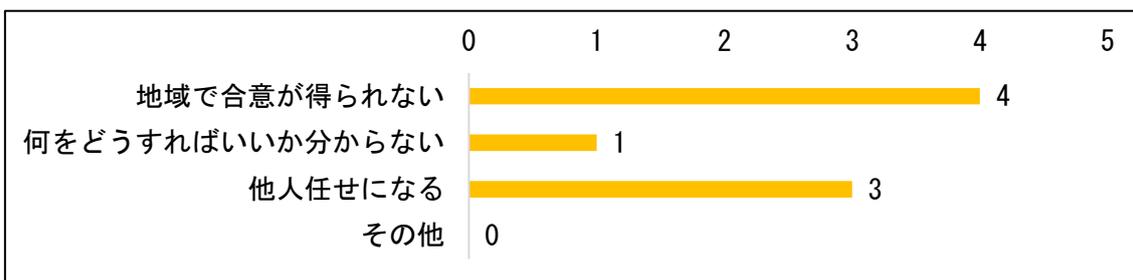
- ・ 祭礼、盆踊り、市民体育大会の校区予選
- ・ 福祉委員と民生委員は何がどう違うのか
- ・ 町内の催事で今年やらなくても不満が出なかったもの
- ・ 様子を見て考えたい
- ・ 盆踊り、市民館祭、敬老会

Q 7 その他、お気づきの点があればご自由にお書きください

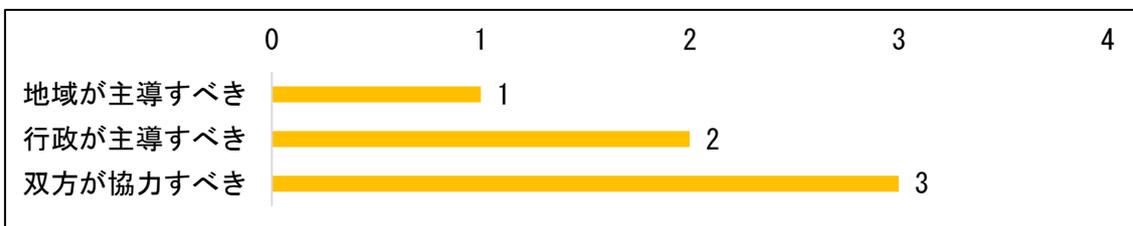
- ・ お寺、神社の活動は町内会と分離すべき
- ・ 引き継ぎ手がない、時代は変わっているので町内会も変えなければ成立しない

蔵子二区町内会のアンケート結果

Q 2 負担軽減や担い手確保といった運営の改善が進まない背景には、何があるでしょうか（○を付ける、複数選択可）？



Q 3 連区や町内会の運営の改善は、どのように進めるべきでしょうか（○を付ける、いずれか一つ）



Q 4 連区や町内会の会議・活動に、毎月、何日ほど費やしていますか（○を付ける、いずれか一つ）



Q 5 本日の検討の結果、連区や町内会の活動のうち、縮小や廃止ができそうな内容がありましたか（自由記入）

- ・ 組長・区議員の仕事の負担軽減
- ・ 区議員会の回数を2回から1回へ
- ・ ボランティアの活用（内容を細分化して募集）
- ・ 集金をまとめて行う
- ・ 会議の回数を減らす
- ・ ボランティアの募集
- ・ 地域で合意されれば可能だと思う

Q6 コロナ禍で連区や町内会の活動が困難ななかで、「今後はこの活動は不要」と感じたものはありますか（自由記入）

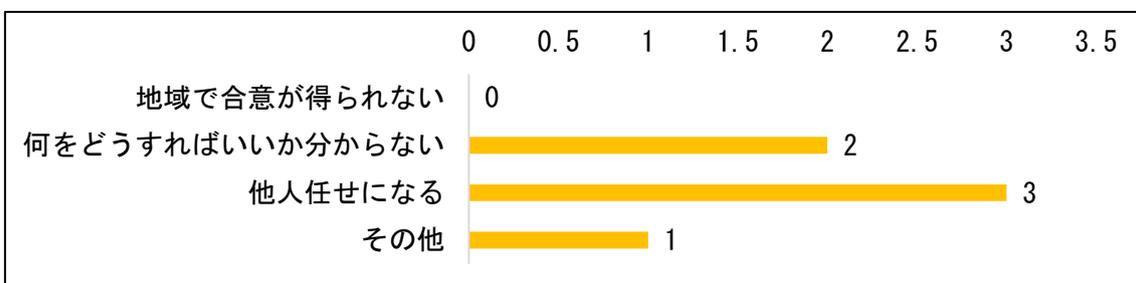
- ・ 校区運動会
- ・ 募金活動が4カ月連続して、組長の負担を大きくしている
- ・ すでに廃止している行事はあり
- ・ 炊き出し
- ・ 打ち上げなどの食事会
- ・ 日赤、社協、護国神社初穂料は不要

Q7 その他、お気づきの点があればご自由にお書きください

- ・ 子ども会や老人会に加入していない世代はメリットがない
- ・ 市役所内の横の連携で町内会をバックアップしてもらいたい

平尾町内会のアンケート結果

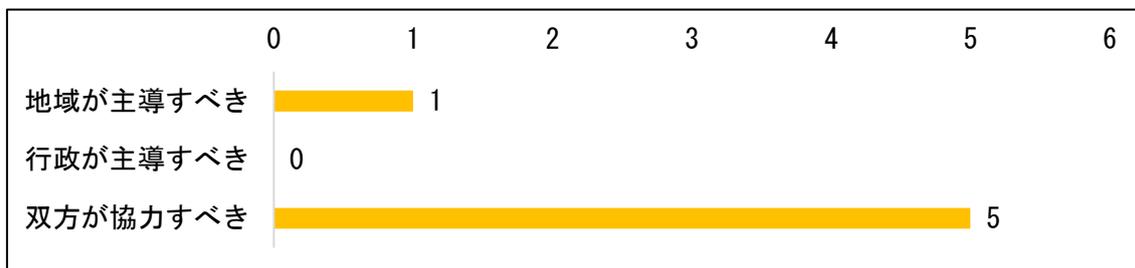
Q2 負担軽減や担い手確保といった運営の改善が進まない背景には、何があるでしょうか（○を付ける、複数選択可）？



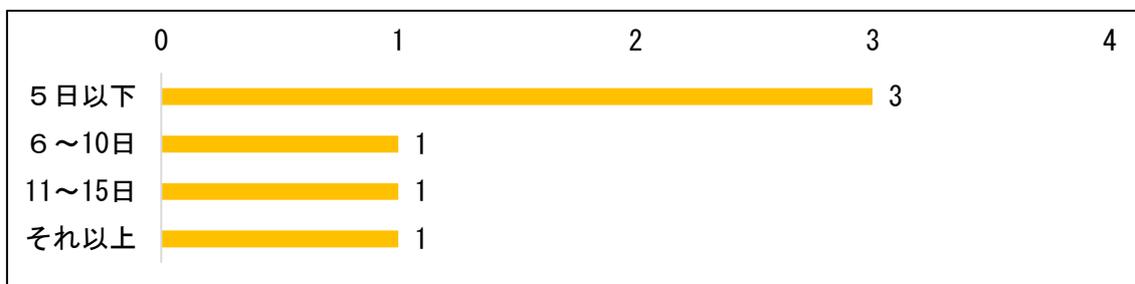
「その他」の内容は以下のとおり。

- ・ 町内、地域、人材、しくみのことが分からない人が多い

Q 3 連区や町内会の運営の改善は、どのように進めるべきでしょうか (○を付ける、いずれか一つ)



Q 4 連区や町内会の会議・活動に、毎月、何日ほど費やしていますか (○を付ける、いずれか一つ)



Q 5 本日の検討の結果、連区や町内会の活動のうち、縮小や廃止ができそうな内容がありましたか (自由記入)

- ・ コロナを機会に見直すチャンス
- ・ なし

Q 6 コロナ禍で連区や町内会の活動が困難ななかで、「今後はこの活動は不要」と感じたものはありますか (自由記入)

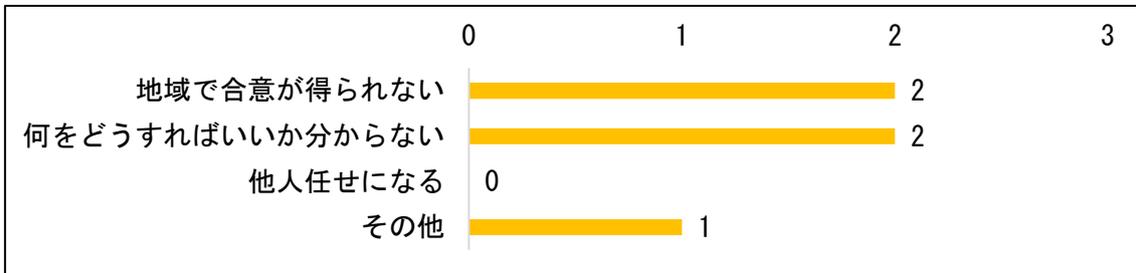
- ・ 要検討
- ・ なし
- ・ 地区市民館祭り

Q 7 その他、お気づきの点があればご自由にお書きください

- ・ 人材発掘の難しさを感じる
- ・ IT 活用
- ・ なし

三上町内会のアンケート結果

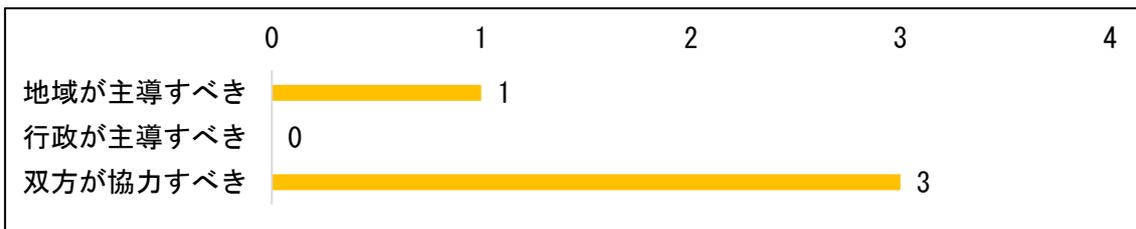
Q 2 負担軽減や担い手確保といった運営の改善が進まない背景には、何があるでしょうか（○を付ける、複数選択可）？



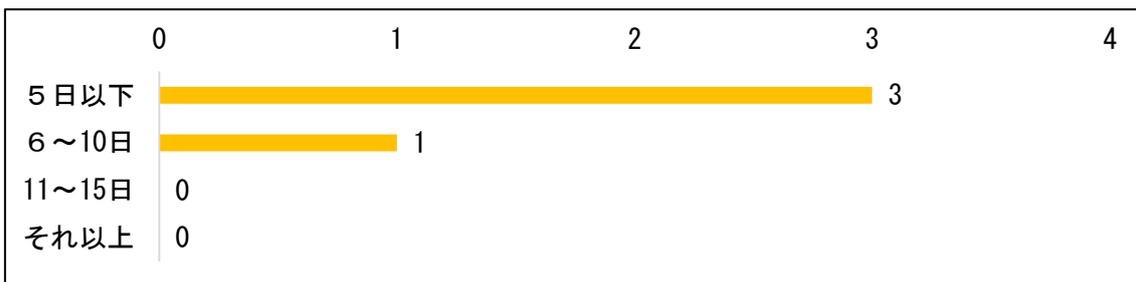
「その他」の内容は以下のとおり。

- ・ トップの仕事量が多い

Q 3 連区や町内会の運営の改善は、どのように進めるべきでしょうか（○を付ける、いずれか一つ）



Q 4 連区や町内会の会議・活動に、毎月、何日ほど費やしていますか（○を付ける、いずれか一つ）



Q 5 本日の検討の結果、連区や町内会の活動のうち、縮小や廃止ができそうな内容がありましたか（自由記入）

- ・ 町内体育大会の開催日の変更
- ・ 会長の選び方の変更

- ・ あり
- ・ 有意義な論議ができました
- ・ 町内会長選出方法
- ・ 町内体育大会

Q6 コロナ禍で連区や町内会の活動が困難ななかで、「今後はこの活動は不要」と感じたものはありますか（自由記入）

- ・ あり
- ・ 特に無し
- ・ 区長会の回数減
- ・ 校区運動会

Q7 その他、お気づきの点があればご自由にお書きください

- ・ 町内会役員を経験して1年間の思いなど意見を交わせたのが良かった

2-3 第2回検討会の開催（令和2年10月）

2-3-1 第2回検討会の概要

第1回検討会での成果および地元協議での検討をふまえ、引き続き「誰が役員になっても運営できる連区・町内会」というテーマのもと、今後の運営のあり方を検討するねらいで、以下のとおり第2回検討会を開催した。

名称	豊川市町内会アドバイザー派遣事業 第2回検討会
日時	令和2年10月25日（日）10：00～12：10
会場	豊川市文化会館大・中・小会議室
出席者	<p>【古宿連区】 佐藤富之、篠田進、平松聖史、河合祥智、本田茂、鈴木正、井澤雅範</p> <p>【蔵子二区町内会】 高田和博、伊藤卓夫、山西芳江、田中仁美、鈴木政予</p> <p>【平尾町内会】 杉浦秀雄、杉浦正敏、寺部文男、寺部圭史、清水サチ子、佐藤直樹、杉原彰、</p>

	<p>大滝裕章</p> <p>【三上町内会】</p> <p>清水浩之、福田和弘、豊田真ヤ、鈴木留美、中村浩之</p> <p>【若者ボランティア】</p> <p>藤原沙奈恵</p> <p>【豊川市役所】</p> <p>木和田恵、近藤邦宏、武村晃、鈴木彩香、山田絵美、本田勇輝</p> <p>【名古屋市立大学】</p> <p>岡本風語、柏原将太、高橋勇輝、平岡佑実子、大竹善政、戸澤実里、林正人、佐藤則子、三浦哲司</p>
ながれ	<p>【アドバイザー（三浦）あいさつ】</p> <p>前回の第1回検討会および地元協議について振り返ったのち、検討会のテーマ（「誰が役員になっても運営できる連区・町内会」）、全3回のなかでの第2回の位置づけ、今回の作業のポイント、などに触れた。</p> <p>【連区・町内会ごとの話し合い】</p> <p>第1回の成果をふまえ、「実践につなげる内容の検討」というワークシートを用いて、「テーマ」「概要」「目標値と時期」などについて検討した。</p> <p>【各団体からの発表】</p> <p>・三上町内会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度中から、現在の町内会長が担っている業務一覧を整理し、副会長にお渡しできる準備に着手する。 ・その時々状況によるが、できる限り区長会の回数を減らせるようにつとめていく。そのために、来年度の役員にも早期に伝達し、認識の共有を図る。 ・全市的な状況にも左右される部分もあるが、体育大会の開催時期の変更に向けて今年度中から話し合いに着手する。 <p>⇒これらを来年度から実施していくことを当面の目標として位置づける。</p>

・平尾町内会

- ・LINE やメールをうまく活用し、全体的に会議の回数を減らしていくようにつとめる。
- ・役員の担い手確保に関しては、話し合いのなかでいろいろ意見があったので、今後に町内会の関係者とも話し合いを重ねながら具体策を検討していく。

・蔵子二区町内会

- ・前回の検討会で出た内容をさらに掘り下げて具体的な実施方法を話し合った。
- ・現在開催している委員会のあり方を見直し、開催回数を減らしていく。
- ・区費などについて、集金時期が近い内容は整理・統合するなどして、集金に関する負担を減らしていく（集金回数の削減）。
- ・子どもの登下校指導や広報物の仕分けにかかる有償ボランティアのしくみと整え、担い手を募っていく。

・古宿連区

- ・今後の建て替えによって新しい市民館はスペースが小さくなるので、来年度の市民館まつりの開催に向けて、建物の規模に合ったまつりの内容に縮小していく検討を進める。
- ・他方で、せっかく新しい市民館ができるのだからオープニングセレモニーが要るとの声もあり、開催にかかる負担の問題も加味しながら話し合いを進めていく。

【全体のまとめ】

- ・ 4つの連区・町内会とも、少しずつではあるものの、「誰が役員になっても運営できる連区・町内会となるには何が必要か」というテーマについて、どこに焦点を当てるかの方向性が定まってきた。
- ・ 今後に実際に実行に移すためには、さらに検討が必要な点があるので、あらためて地元協議など場において、今後に詳細を詰めていくことになる。
- ・ 考えることも大切ではあるものの、実行に移すことがより大切といえる。

	いざ実行に移すとまた新しい課題が出てくるので、それをどう解消していくかも適宜、考えながら前に進んでいくことになる。
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> 参加者はそれぞれ「活動負担の軽減」「新たな担い手の確保」という点では、課題意識が共通している。そのため、毎回の検討会や地元協議でも「誰が役員になっても運営できる連区・町内会」というテーマを確認しつつ、検討自体がテーマから逸れることが無いように留意する必要がある。 連区・町内会ごとで検討の進捗に差が出始めてきているので、地元協議の場などを活用しながら、検討会以外の場でフォローアップが要る。

2-3-2 アンケートの結果

第2回検討会における参加者向けのアンケート結果は、4団体別では以下のとおりであった。

古宿連区のアンケート結果

Q2 これまで2回の検討会の進め方について、気になる点や改善点などがあればお書きください（自由記入）

- あまり意見を言えていない人がいる。
- 少人数の意見で町内の行事を決めるのは心配です。

Q3 これまで開催してきた地元協議の進め方について、気になる点や改善点などがあればお書きください（自由記入）

- 昔からずっと同じイベント、物に恵まれた、少子高齢時代に変化が必要。
- 参加者が少ないと思うので、過去3年間くらいの役員に出席を依頼してはどうか。
- 短時間で意見を求めることに疑問を感じます。

Q4 その他、お気づきの点があればご自由にお書きください

- 話が具体的な問題となっているなかで、「そもそも論」になってしまいますが、本来の町内会の意義や町内会の必要性、「町内会に入ってよかった」と思える点などを話し合うのはどうでしょうか。
- 町内の内容もよく解らないにもかかわらず意見を言うことに不安を感じる。

蔵子二区町内会のアンケート結果

Q2 これまで2回の検討会の進め方について、気になる点や改善点などがあればお書きください（自由記入）

- ・ 話し合いのまとめやポイントを提示する形でしぼって行われて、とてもわかりやすかった。
- ・ 問題点がわかり、ほかの方の意見が聞ける。改善を考える機会としてよい。

Q3 これまで開催してきた地元協議の進め方について、気になる点や改善点などがあればお書きください（自由記入）

- ・ 町内ごとの実情があり、悩みも多くなかなか改善に向けて具体案が見つけにくい。
- ・ 実際に町内で賛成していただけるか？
- ・ 司会進行・記録をしていただけてまとめやすかったです。
- ・ 深く考え、話し合いをする時間が少ない。

Q4 その他、お気づきの点があればご自由にお書きください

- ・ 2年間の経験をできるだけ皆さんに伝えていきたい。
- ・ 考える場に参加できて、よい機会でした。
- ・ だんだんと解決するために具体的な案が出てきていてよかった。また、高校生も参加できるようなものを出していただけてありがたかった。

平尾町内会のアンケート結果

Q2 これまで2回の検討会の進め方について、気になる点や改善点などがあればお書きください（自由記入）

- ・ 平尾地区では討論は盛り上がるが、かえって当初の目標を達成できていない。
- ・ 話の論点がずれやすい。
- ・ 議題を明確にするべき。
- ・ 事業のねらいから話がそれたときに、進行役側で検討会をうまくコントロールしてもらえると良いと思いました。
- ・ 問題は絞られつつあるが、解決方法が自分たちだけでは見つからない。

Q3 これまで開催してきた地元協議の進め方について、気になる点や改善点などがあればお書きください（自由記入）

- ・ ふたつの課題（直近と将来の話）が出てきたよかった。

- ・ 結論を出すわけではなく、まずは道しるべを作る。
- ・ 町内のそれぞれの団体の長との話し合いの機会を持ちたい。

Q 4 その他、お気づきの点があればご自由にお書きください

- ・ 良い経験になります。
- ・ 次の町内の担い手を考えるのは難しいですね。若い人の意見は貴重です。

三上町内会のアンケート結果

Q 2 これまで2回の検討会の進め方について、気になる点や改善点などがあればお書きください（自由記入）

（無し）

Q 3 これまで開催してきた地元協議の進め方について、気になる点や改善点などがあればお書きください（自由記入）

（無し）

Q 4 その他、お気づきの点があればご自由にお書きください

- ・ いい方向に進んでいる気がします。
- ・ 町内会運営について改めて考えることができ、有意義である。
- ・ 検討会に参加して、町内会への意識が継続している。役員任期が終われば町内会から離れていくのが常である。

2-4 第3回検討会の開催（令和3年3月）

2-4-1 第3回検討会の概要

第2回検討会での成果をふまえ、引き続き「誰が役員になっても運営できる連区・町内会」というテーマのもと、今後の運営のあり方の具体策を整理・発表するねらいで、以下のとおり第3回検討会を開催した。

名称	豊川市町内会アドバイザー派遣事業 第3回検討会
日時	令和3年3月14日（日）14：00～16：10
会場	豊川市勤労福祉会館 大研修ホール

出席者	<p>【古宿連区】 篠田進、平松聖史、本田茂、鈴木正、木和田聡哉</p> <p>【蔵子二区町内会】 高田和博、伊藤卓夫、山西芳江、田中仁美、鈴木政予、佐宗盛彦</p> <p>【平尾町内会】 杉浦秀雄、杉浦正敏、寺部文男、寺部圭史、清水サチ子、佐藤直樹、清水逸男、中田純</p> <p>【三上町内会】 清水浩之、福田和弘、豊田真ヤ、鈴木留美、中村浩之</p> <p>【若者ボランティア】 藤原沙奈恵</p> <p>【豊川市役所】 木和田恵、近藤邦宏、武村晃、鈴木彩香、山田絵美、本田勇輝</p> <p>【名古屋市立大学】 岡本風語、高橋勇輝、大竹善政、戸澤実里、林正人、佐藤則子、三浦哲司</p>
ながれ	<p>【アドバイザー（三浦）あいさつ】 前回から期間が開いた点をふまえ、これまでの内容を振り返ったのち、検討会のテーマ（「誰が役員になっても運営できる連区・町内会」）、全3回のなかでの第3回の位置づけ、今回の作業のポイント、などに触れた。</p> <p>【連区・町内会ごとの話し合い】 これまでの成果をふまえ、「私たちの運営改善策と実践」というワークシートを用いて、「テーマ」「概要」「現況とこれから」「目標値と時期」などについて検討した。</p> <p>【各団体の発表（ワールドカフェ方式で2巡）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古宿連区 「市民館の改築にともなうオープニングイベントおよび市民館まつりのあり方」をテーマに検討を進めてきた。古宿連区では現在、市民館の改

築が行なわれており、新しい市民館において令和3年度の催事をどのように運営していくかが検討課題となっている。新しい市民館は現在よりも館内面積が縮小されるので、市民館まつりの規模や内容は自ずと見直さざるを得ない。関連して、町内会加入世帯の減少によって催事負担も増加しているので、今回を契機にさまざまな見直しを進めたい。なお、今年度で役員を退任する者も多く、この検討会で協議してきた内容について、いかにして次年度の役員に引き継いでいくかという点にも留意が要る。

・**蔵子二区町内会**

「役員の負担軽減」「常時活動の見直し」の2テーマについて検討を重ねてきた。このうち、「役員の負担軽減」に関しては、①区議員の会議を毎月2回から毎月1回へと回数を見直すこと、②さまざまな項目の集金や募金を個別ではなく取りまとめて実施すること、の2点を少しずつ実行中である。「常時活動の見直し」に関しては、①広報紙の仕分け、登下校の見守り、ごみステーションの監視を担当する有償ボランティアのしくみづくり、②外部委託も視野に入れた公園清掃のあり方の検討、の2点に取り組んでいる。こちらはいずれも検討段階であるが、ともに来年度から動き出していきたい。

・**平尾町内会**

さまざまな角度から運営のあり方を見直しについて検討してきた。具体的には、①役員の選出方法の見直し、②既存の催事のあり方を見直し、③催事の企画や運営を担う実行委員会の発足に向けた検討、に取り組んできた。現在は検討段階の内容も多いが、それ以外にもLINEや電子メールをうまく活用して会議回数を削減する、中長期的な組織運営を見据えてより具体的な担い手確保策を検討する、なども話し合ってきた。

・**三上町内会**

「役員の負担軽減」を主なテーマにして検討を重ねてきた。具体的な取り組み内容としては、主にふたつがある。第一は、町内会長の業務の整理、および副会長と分担できる業務の精査であり、次年度の役員にしっかりと引き継いでいきたい。第二は、催事や会議の見直しであり、町内の体育大

	<p>会の開催時期の見直しをとおして役員負担が分散できるように対処するとともに、区長会の回数の見直しにも着手する。実際にこれらを進めるには、関係者への説明や意見聴取があるので、さっそく動き出したい。</p> <p>【各団体内での共有】</p> <p>各団体の発表者は、他団体の参加者から受けた質問およびそれへの回答について報告した。また、他団体の発表を聞きに行った参加者からは、他団体の取り組み内容や質疑応答のやりとりについて報告した。</p> <p>【全体のまとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今回までの作業を通じて、各団体とも今後の運営改善に向けて取り組む内容を固めることができた。次の段階としては、こうした取り組み内容をいかにして実行に移すかがポイントになる。 ・ 今年度で役員を退任され、次期役員に引き継ぎをされる方もおられると思う。地域活動でしばしばみられるのは、役員交代によってこれまでの検討内容が引き継がれず、実行に移されなかったというケースである。そのため、役員交代がある場合は、こうした点に留意して対応されたい。同時に、来年度も継続して役員を担当される方は、ぜひとも来年度の実践を期待したい。 ・ 本事業は次年度も継続の見通しとなっており、「誰が役員になっても運営できる連区・町内会となるには何が必要か」というテーマのもと、団体ごとに実践を重ね、その成果の共有などを進めたい。
<p>今後に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回で今年度の検討会は終了となった。ただ、各団体とも検討してきた取り組み内容の本格実施は次年度からなので、各団体の主体性を尊重しつつ、状況共有の場の設定など、引き続きフォローアップの対応が必要となる。 ・ 今年度の検討会の開催を通じて、運営自体の課題としていくつか見えてきた内容もある。具体的には、各回のテーマ、進行方法、参加人数、レイアウト、成果物の作成、大学としての対応方法など、検討会そのものの進め方があげられる。また、地元協議の有効性も明らかとなったので、これを

来年度はどのように位置づけていくかも整理しておくべきだろう。そのため、来年度の開催に向けて、関係者で本事業の進め方に関する検討機会の設定が必要となる。

2-4-2 アンケートの結果

第3回検討会における参加者向けのアンケート結果は、4団体別では以下のとおりであった。

古宿連区のアンケート結果

Q2 これまでの勉強会・検討会・地元協議の進め方について、気になる点や改善点などがあればお書きください（自由記入）

- ・（回答無し）

Q3 来年度の事業展開にむけ、お気づきの点や運営側への要望などがあればお書きください（自由記入）

- ・（回答無し）

Q4 その他、お気づきの点があればご自由にお書きください

- ・（回答無し）

蔵子二区町内会のアンケート結果

Q2 これまでの勉強会・検討会・地元協議の進め方について、気になる点や改善点などがあればお書きください（自由記入）

- ・ さまざまな課題が出てくるなかで、限られた時間で改善点を出すのは難しいなと思った。他の町内の話を聞いて意見交換するのは、新しいことを知ることができるので、すごく良いと思う。
- ・ 長年行われてきた内容を変更することはとても難しい。一年任期のなかでは行事を理解するだけでした。
- ・ 町内会存続の難しさの確認ができた。欲を言えば市の力をもっと欲しい。町内の人がメリットを感じられるものがほしい。
- ・ 本日の回の回し方は、よかったのではないかな。
- ・ 広い会場で行なうのは、少し難しいと感じた。

- ・ 高校生は一人では話に入りづらいのではないかと感じた。

Q 3 来年度の事業展開にむけ、お気づきの点や運営側への要望などがあればお書きください（自由記入）

- ・ いろいろな町内会の組織や体制を知ることができてとても参考になった。なので、組織別の利点、難点をいくつかの例として、本事業のなかでアドバイスしてもらえると、対策を考えるうえでよいと思いました。
- ・ 町内会員を増やすアドバイス、アイデアなど、特効薬がほしい。そういうプロはいないのか。
- ・ 町内会の運営は一律でなく、年度ごとに検討してやりやすい方法でやっていけばよいのではないか。

Q 4 その他、お気づきの点があればご自由にお書きください

- ・ 自分の地域の問題点と他の地域の問題点が照らし合わせることができ、良かったと思う。同じような事柄でみなさん悩んでおられると分かった。
- ・ 時間の限られたなかでのアイデア出しだったけど、ごくろうさまでした。
- ・ 会場が広く、声が通らない。聞こえにくい。

平尾町内会のアンケート結果

Q 2 これまでの勉強会・検討会・地元協議の進め方について、気になる点や改善点などがあればお書きください（自由記入）

- ・ 消防団の 40 代、はっちゃけ会の 50 代、今の役員の 60 代と、話ができた。
- ・ 難聴のため、本日の会は大変聞き取りづらかった。
- ・ 各地区での話し合いの場が、コロナ対策のせいで広すぎて、声が届きにくかった。
- ・ ワールドカフェ方式は非常に良かった。
- ・ 引き続き町内会役員の選出方法を明文化したい。
- ・ いい話ができたと思う。

Q 3 来年度の事業展開にむけ、お気づきの点や運営側への要望などがあればお書きください（自由記入）

- ・ 町内会の加入者を増やす努力が要る。
- ・ お祭の運営を実行委員会形式で協議する方法に変えていく。

Q 4 その他、お気づきの点があればご自由にお書きください

- ・ 会議はこれまでの小部屋のほうが、声が通って聞きやすかった。
- ・ 勉強になりました。
- ・ 他の町内にも同じような問題があると思った。

三上町内会のアンケート結果

Q2 これまでの勉強会・検討会・地元協議の進め方について、気になる点や改善点などがあればお書きください（自由記入）

- ・ 各地区それぞれ問題点があり、改善策があり、興味深く聞けました。
- ・ 各連区との交流がほとんどないので、交流できる場があればよいと思う。

Q3 来年度の事業展開にむけ、お気づきの点や運営側への要望などがあればお書きください（自由記入）

- ・ ぜひ続けてください。

Q4 その他、お気づきの点があればご自由にお書きください

- ・ 時間にもう少し余裕がほしい。

2-5 地元協議の開催

以下のとおり、連区・町内会ごとで地元協議を開催してきた。この地元協議自体は、当初には開催予定はなかったが、毎回の検討会を円滑に進め、実りある場とするために、検討会の開催前後で開催することになった。

とき	会議	場所	内容
令和2年8月21日 18:00～19:30	第1回平尾 町内会地元 協議	平尾 公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 役員選出の現状について ・ 転入者の活動参加について ・ イベント開催について ・ 消防団やハッチャケ会との連携について
令和2年8月25日 18:00～19:30	第1回古宿 連区地元協	古宿地区 市民館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 役員の選出について ・ 区の事業について

	議		<ul style="list-style-type: none"> ・ 区の合併について ・ 町内会加入について ・ 市の依頼事業について ・ その他
令和2年9月2日 18:30~20:00	第1回蔵子 二区町内会 地元協議	代田地区 市民館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 役員を選出について ・ 運営の負担について ・ 町内会加入のメリットなど ・ 運営資金の課題について ・ その他
令和2年10月2日 19:00~20:30	第2回蔵子 二区町内会 地元協議	代田地区 市民館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引継ぎ資料の保存方法について ・ 入居者の把握漏れについて ・ 役員の担い手不足について ・ 組の編成について
令和2年10月8日 19:00~20:30	第2回平尾 町内会地元 協議	平尾 公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消防団について ・ 町内の組織について ・ ハッチャケ会について ・ 町内会3役の決め方について ・ イベントについて
令和2年10月10日 18:00~19:05	第2回古宿 連区地元協 議	古宿地区 市民館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連区役員を選出について ・ 行事の負担について ・ 名市大との意見交換

3 分析・考察・提案

ここまでの内容をふまえ、以下では本事業の実施からみえてきた連区・町内会の運営について分析し、この結果を考察して、運営改善に向けた今後の方向性を提案したい。

3-1 分析・考察

上記のとおり、本事業では毎回、意見交換に加えてワークショップの形式を採り、参加する連区・町内会の関係者同士の対話を重視してきた。その過程を通じて、現状において各団体が以下の3つの状況に置かれている点を把握することができた。

第一は、「現在の運営を続けるままでは、将来的に活動の継続が難しくなるので、今のうちから何とか対処しなければならない」という思いは共通している点である。もちろん、今年度に本事業に参加した4団体は、それぞれが置かれている事情や環境は大きく異なる部分もある。結果として、年間スケジュールの見直しや従来 of 活動の統廃合によって、運営を合理化・効率化させることに重点を置く団体もあった。他方、活動拠点の建て替えに合わせ、催事開催のあり方を改めていくことに重点を置く団体もみられた。このように、各団体の課題や関心事はさまざまではあるが、その根底では上記の「現在の運営を続けるままでは、将来的に活動の継続が難しくなるので、今のうちから何とか対処しなければならない」という思いが共通しており、それが本事業における運営改善に向けた検討にとっての動機づけになったといえよう。もっとも、重要なのはこうした思いや検討結果をいかにして実行に移していくかである。

第二は、「新型コロナウイルスの影響により、これまでの地域活動にはさまざまな影響が生じ始めており、今後は新しい生活様式のもとでの活動が要請される」という点である。今年度に参加した各団体は、実際に令和2年度は多くの活動が中止や規模縮小を余儀なくされた。具体的には、盆踊りのような催事のほか、防災訓練のような活動でも困難が生じている。この点に関しては、いわゆる新しい生活様式のもとでの活動は当面も続く見通しであり、日ごろの活動においては常に密室・密閉・密接を避け（三密回避）、検温や除菌の徹底が求められ続けるであろう。そうであるならば、活動にともなう新たな負担も生じるわけで、なおのこと全体的な業務・活動のあり方の見直しが問われることになる。

第三は、他方で「運営改善の必要性は痛感しているものの、関係者間の合意形成は必ずしも容易ではなく、議論を重ねても状況打開への道のりは決して平坦ではない」という点であ

る。実際に、同じ団体の関係者同士でも、日ごろの活動にともなう時間的な負担や体力的な負担のとらえ方は一様ではなく、こうしたちがいによって議論がかみ合わない場合も看取された。また、本事業に参加した関係者のなかでは合意が得られても、それを地元を持ち帰った際に合意が得られるかは、未明な部分もあった。本事業では「誰が役員になっても運営できる連区・町内会」をテーマに、毎回の検討を重ねてきた。ただ、一人ひとりが置かれている環境や立場のちがいもあり、関係者が同じ方向を向いて運営改善の検討を進めるうえでは、こうした事情の有無など留意すべき点は決して少なくないといえる。

3-2 今後の町内会運営に向けた提案

このようにみると、本事業に参加する各団体の思いの一方で、新型コロナウイルスの影響や合意形成の難しさが積み重なって、これまでの運営や活動を大胆に見直すことには、さまざまな困難がともなうという事情を、あらためて把握することができる。こうした事情をふまえ、ここでは今後の連区・町内会運営に向けた提案として、以下の2点に触れておきたい。

第一は、本事業を通じて検討を重ねた、今後の運営や活動のあり方について、実際に各団体に実行に移す段階では、どのタイミングで、どのような場において、どの範囲の関係者から、どこまでの内容について、合意を調達するのかを明らかにしておくという点である。すでに毎回の検討会においては、「この場で方向性が確認できても、実際に地元を話しを持ち帰った際に合意が得られるかは未明」「この場に参加している関係者のみの判断で物事を決めることに不安を感じる」などの意見も看取されていた。そうであるならば、検討会での検討内容について、今後に実行に移していく段階を見据えて、上記のような時期や場所や関係者などを整理しておく必要がある。

第二は、これまでの運営や活動の蓄積をふまえ、いきなり大胆な変更を加えるのではなく、まずは地道ではあるものの、スモールステップから着手して、小さな成果の獲得をめざすという点である。上記のとおり、既存の業務・活動の見直しには、さまざまな困難がともなう。そうしたなかで、一気に大胆な変更を進めようとするほど、困難の度合いはいっそう高まることになる。そうであるならば、短期間のうちに大きな成果の獲得をめざすのではなく、本事業で検討した内容のうち、優先順位が高く、実現可能性も高いものから順に、取り組んでいくのが現実的であろう。換言するならば、本事業を通じて「誰が役員になっても運営できる連区・町内会」を検討してきたにもかかわらず、大胆な見直しによって関係者の負担が過重となって、いっそう活動困難に陥る事態は避けなければならない。

ともあれ、この点に関しては、現在は新型コロナウイルスの影響もあり、従来の活動のなかには中止や見直しを余儀なくされ、結果として時間的な余裕が生まれている部分もあるだろう。そこで、現在のコロナ禍を「ピンチではなくチャンス」と前向きにとらえ、今後の活動につなげる「アイドリング期間」としてうまく活用する姿勢が重要となる。今後の地域活動においては、当面はコロナ対策が必須の状況が続く見通しであり、それに順応した活動のあり方が要請される。こうした局面だからこそ、あらためて一歩立ち止まって、これまでの運営や活動のあり方を振り返りつつ、今後においてどのような対応が要るのかを検討する必要があるといえよう。

4 ヒント集

本事業を通じて、連区や町内会の関係者からは、運営や活動にかかるさまざまな角度での意見交換や質疑応答が行なわれた。それらの内容をふまえ、ここでは今後の運営や活動にとってヒントとなるような具体例を整理しておきたい。

4-1 業務の合理化・効率化

4-1-1 業務一覧の見える化、引き継ぎデータの整理

神戸市東灘区の北青木自治会（約 650 世帯）では、充て職も多く、業務の全体量が客観的に把握できていない状況をふまえ、自治会長へのインタビューや各種資料の整理を通じて、会長業務の把握および業務棚卸しに取り組んだ。実際に作業を担当したのは、学生や社会人から構成されるチームであり、自治会組織図、種類別に整理・区分された自治会長の業務リスト、自治会長の月間・年間スケジュールなどの整理を進めた。その結果、自治会長の業務にかかる見える化を達成することができた。

参考 URL https://socialbridge.city.kobe.lg.jp/project/ksb19_kitaaoki

（神戸ソーシャルブリッジホームページ）

4-1-2 ICT 活用による連絡調整の効率化

石川県野々市市では、市内の連合町内会や単位町内会が連絡調整アプリ「結ネット」の活用を促している。これは、地域の情報を会員のスマートフォンに届けたり、各種の会議案内と出欠確認が可能となる内容である。また、災害時には会員に対して災害情報を流すとともに、会員からは安否確認報告を受けることもできる。このアプリを活用すれば、平時から連絡調整が効率的になり、文書づくりと配布の手間も削減できるという。もっとも、スマートフォン利用者に関しては、70代で約5割、80代以上で約2割であり、一定の留意も要る。

参考 URL <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOJB100SB0Q0A211C2000000/>

（日本経済新聞ホームページ）

4-1-3 会費等の集金の効率化

沖縄県南城市の津波古自治会（約 1550 世帯）では、自治会費の決済に「ペイペイ」「LINE

ペイ」といったスマートフォン決済サービスを導入している。このように、若い世代になじみがあるキャッシュレス決済のしくみを整えることで、支払いを用意するとともに、集金にかかる負担が削減できる効果もある。新型コロナウイルスの影響によって、対面での集金も容易ではないなかで、今後はキャッシュレス決済による町内会費の納金が広まりうる。ただし、役員側にノウハウが無ければ、導入は必ずしも容易でない点には留意が要る。

参考 URL <https://ryukyushimpo.jp/news/entry-904768.html>

(琉球新報ホームページ)

4-1-4 会議のオンライン化

横浜市保土ヶ谷区の常盤台地区連合町内会では、新型コロナウイルスの影響によって公共施設が利用できない状況をふまえ、ウェブ会議サービス「Zoom」を利用して役員会を開催している。当初は役員の多くが高齢者であり、デジタル機器の利用になれていない点が懸念されたものの、一部の役員が機器利用の事前指導を行なったことで、全員が円滑にオンラインでの役員会に参加することができた。参加者からも、自宅から役員会に参加できるというところで、評価する声もあがっているという。

参考 URL <https://www.nikkei.com/article/DGKKZO60785470V20C20A6KNTP00/>

(日本経済新聞ホームページ)

4-2 組織や活動の見直し

4-2-1 組織の統合

京都府綾部市小畑町（約 90 世帯）の本城奥自治会、中自治会、日向自治会の 3 つは、少子高齢化や定年延長による担い手不足の状況をふまえ、ひとつの組織に統合することになっている。こうすることで、頻繁に役員が回ってくる状況を回避するとともに、小畑町区会（上部組織）との関係も一元化させ、いっそうの効率化を図っていく。また、こうした統合のうごきに合わせて、各自自治会内の組の単位も見直していくという。もっとも、自治会の合併に関しては、会員規模、会費、財産、規則や会則、行事、過去の歴史などさまざまな事情もあり、必ずしも容易に検討が進むわけではない点には留意を要する。

参考 URL <https://www.kyoto-np.co.jp/articles/gallery/481161>

(京都新聞ホームページ)

4-2-2 外部人材の活用

東京都練馬区の小竹町会（約 5500 世帯）では、町内会への加入率の低下に悩みを抱えるなかで情報発信を重視し、町内会独自のホームページづくりに取り組んだ。もっとも、町内会の役員にはホームページづくりの経験やノウハウもなく、何をどのように作業すればよいのかがまったくわからない状態であった。そこで、中間支援団体（NPO 法人サービスグラント）の支援のもと、プロボノワーカーとともに作業を進め、おおよそ半年でホームページを完成させることができた。

参考 URL <https://www.servicegrant.or.jp/projectslist/kotake/>

（NPO 法人サービスグラントホームページ）

4-2-3 イベントの実行委員会方式の導入

名古屋市天白区の平針南学区連絡協議会（約 6000 世帯）では、「誰もが気軽に地域活動に参加できるしくみづくり」をテーマに、一部の活動において実行委員会方式を採用している。具体的には、文化活動委員会は環境問題や郷土の歴史を学ぶ「おもしろセミナー」の開催を担当し、また産直推進委員会は生鮮食料品を扱う産地直売会の開催を担当している。とりわけ後者に関しては、学区内でのショッピングセンターの撤退が背景にあった。こうしたしくみを整えることで、参加希望者を受け入れる体制づくりに成功している。

参考 URL <https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/14308.pdf>

（愛知県庁ホームページ）

